

一般質問

市政のついでを問う

この定例会では、12月3日から5日までの3日間で、15人が登壇し、36項目にわたり、市政全般についてたまたす一般質問が行われました。一人一項目を要約し、掲載します。

一般質問項目（発言順）※印が掲載した項目です。

- 佐原 充 議員
 - ※1 環境美化・環境保護について
 - ※2 シティセールスについて
 - ※3 発達障がい者への総合支援について
- 新海 真 議員
 - ※1 刈谷駅の整備について
 - ※2 公共施設連絡バスについて
 - ※3 空き家対策について
- 山本 シモ子 議員
 - ※1 子ども・子育て支援新制度の課題・問題点について
 - ※2 保育園の指定管理者の問題点について
 - ※3 地域経済活性化に向けた取り組みについて
- 白土 美恵子 議員
 - ※1 認知症について
 - ※2 スマホを活用した行政サービスについて
 - ※3 医療費適正化の取り組みについて
- 中嶋 祥元 議員
 - ※1 周辺市との円滑な交通網の確立と安全対策について
 - ※2 スポーツ施設の充実について
 - ※3 刈谷駅北口再開発について
- 神谷 昌宏 議員
 - ※1 刈谷市自治基本条例について
 - ※2 健康 議員
 - ※3 教育行政でのいじめ問題について
- 新村 健治 議員
 - ※1 新規就農支援制度について
 - ※2 街路樹の安全点検について
 - ※3 絹男 議員
- 鈴木 絹男 議員
 - ※1 「まちづくり」について
 - ※2 雅春 議員
 - ※3 アルコール依存症について
- 星野 雅春 議員
 - ※1 国民健康保険について
 - ※2 認知症高齢者の徘徊について
 - ※3 不燃物埋立場について
- 加藤 肇昭 議員
 - ※1 住宅等の地震対策の補助制度について
 - ※2 上田 昌哉 議員
 - ※3 刈谷駅周辺のまちづくりについて
- 上田 昌哉 議員
 - ※1 刈谷市の防災と防犯について
 - ※2 沖野 温志 議員
 - ※3 刈谷の産業政策について
- 沖野 温志 議員
 - ※1 子育て支援について
 - ※2 松永 寿 議員
 - ※3 高齢者福祉の充実について
- 松永 寿 議員
 - ※1 放課後児童クラブの取り組みについて
 - ※2 刈谷市環境基本計画の推進について
 - ※3 山崎 高晴 議員
- 山崎 高晴 議員
 - ※1 庁舎における市民、職員の安全確保について
 - ※2 平和行政への取り組みについて
 - ※3 野村 武文 議員
- 野村 武文 議員
 - ※1 積立基金等と運用について
 - ※2 食料とエネルギーの地産地消について

一般質問のすべての質問・答弁がホームページから映像でご覧になれます。「刈谷市議会」で検索し、「議会映像をみる」をクリックしてください。

佐原 充 議員

補助員を増員し、障がいのある子どもにきめ細かい支援を

（主な答弁者：教育部長）

問 市内小中学校で発達障がいがあるいは障がいの可能性がある児童・生徒数は。

答 通常学級で340名、特別支援学級で170名の合計510名である。

問 発達障がいや肢体不自由の児童・生徒のそばに寄り添って、教育活動全般の補助を行う支援指導補助員等はあるのか。

答 教員免許や保育士資格を有している方など様々であるが、面接や事前に説明会を実施し、子どもに寄り添って支援指導している。

新海 真規 議員

市の玄関口である刈谷駅のさらなる改善と整備を

（主な答弁者：建設部長）

問 刈谷駅は市の玄関口として、市の繁栄に大きな役割を果たしている。来訪者が目にし易い連絡通路の壁面を広報板として活用することが市のアピールに有効と考えている。壁面掲示板の活用について、以前にも要望が出ているが進捗状況はどうか。

答 デジタルサイネージ（電子看板）に、駅周辺の地図や店舗情報等を表示して、街の活性化に繋げる取組みをしている。先進市を参考にしながら、現在鉄道業者との協議を行っている。

問 通路の点字ブロックに人多機能トイレに改修していく。

答 来年度以降早期に和式便器の一部を洋式便器に取替える。また、オストメイト対応トイレを設置し、障がいの者に配慮した多機能トイレに改修していく。

山本 シモ子 議員

子ども・子育て支援新制度で公的役割の堅持を

（主な答弁者：次世代育成部長）

問 幼稚園の預かり保育は、新制度への移行により何か変更があるのか。また、時間拡大などの拡充をする予定はあるか。

答 変更は無いが、来年度以降は利用者ニーズを把握しながら、預かり保育を充実させる方針を検討していきたい。

問 支援指導補助員の増員を要望する声現場からも上がってきているが、各学校への配置の考え方はどのようなものか。

答 自傷行為などから、身体の安全を確保する必要がある児童・生徒や、肢体に障がいのある児童・生徒に対してはマンツーマンで配置し、通常学級に在籍する発達障がいのある児童などに対しては、おおむね10名に1人の割合で配置するなど、障がいの程度に合わせた配置を心がけている。

問 駅トイレは老朽化が著しく、和式トイレしかないが、改修を考えているか。

答 来年度以降早期に和式便器の一部を洋式便器に取替える。また、オストメイト対応トイレを設置し、障がいの者に配慮した多機能トイレに改修していく。

問 児童1人の保育にかかる費用額として国から示される公定価格の仮単価は、事業所の所在地や規模などによって異なる

ため、園によって格差が出ないか危惧されるが、本市ではどのようなになるのか。

答 国の仮単価から試算するため、園によって格差が出ないか危惧されるが、本市ではどのようなになるのか。



笑顔あふれる預かり保育

白土 美恵子 議員

医療費の適正化に努め、国保財政の健全運営を

（主な答弁者：長寿保険部長）

問 レセプトや特定健診などの情報を活用し、健康づくりや重症化予防につなげる「データヘルス計画」という事業があるが、いつ策定され、どのように取り組む予定であるか。

答 平成26年6月に厚労省から基本的な記載項目などが示された。現在はその内容を精査するとともに、先進的な取組事例等についての情報収集を行っている。なお、策定期間は平成27年度を予定している。

問 平成25年12月議会で、先発医薬品をジェネリック医薬品

中嶋 祥元 議員

渋滞解消と物流の効率化のため、西三河全体の道路網整備を

（主な答弁者：建設部長）

問 ハイウェイオアシスにスマートインターを設置するため調査費用が予算化されたが、実現となれば地域の渋滞悪化も予想されるため、名古屋岡崎線の延伸時期を同調させる必要があると思うがどうか。

答 延伸の時期は未定であるが、早期事業化を引き続き強く県に要望していく。



井ヶ谷町沢渡交差点渋滞の様子

問 国道 419 号の 4 車線化、小垣江安城線の 23 号接続は、刈谷市南部の物流網を大きく変化させると思われ、早期実現が必要であると思うがどうか。

答 4 車線化事業は、今年度末には市内の残り区間が約 800m となるため、早期完了に向けて引き続き県に要望を行う。

小垣江安城線は、平成 25 年度

から県事業として着手し、現在、公安協議を実施している。また、地元説明会を開催し、引き続き用地測量を行っていく予定である。この路線は渋滞緩和、物流の円滑化、防災力向上に寄与するものと認識しているため、あらゆる方策を検討しながら早期の事業完了に向け、積極的に協力を行っていく。

神谷 昌宏 議員

刈谷駅北口再開発の実現に向け、積極的な主導を

―魅力ある複合的な駅前空間の創出を目指していく―

問 9 月議会で、刈谷駅北口の再開発について、地元の機運が高まってきたとの答弁があったが、現状はどうか。

答 民間主導での再開発を前提としたものであるが、実現性のある話のほか、関係利権者の状況なども情報として入っており、徐々にではあるが、再開発の機運が高まってきていると認識している。

問 平成 11 年度に北口の再開発が実現に至らなかった理由はどのようなものか。

答 土地所有者や建物所有者、また賃借人などの権利関係が複雑であることや、関係利権者の考え方の相違などが考えられる。

新村 健治 議員

教育行政におけるいじめの把握と対応の徹底を

―子どもの理解に努め、寄り添った指導を心がけていく―

問 いじめ問題は社会が正面から取り組み、事態を打開することが大切である。いじめをどう把握し、対応しているのか。

答 学校生活の様子やアンケート、相談、スクールカウンセラー等からの情報で把握している。教育委員会等に相談があれば学校に伝え、対応方法をア



再開発の機運が高まる刈谷駅北口

場新設の 2 つの整備を実施する必要がありと考えられるが、民間だけでは当然できるものではない。この 2 つの整備に関して、どのように考えているのか。

答 魅力ある複合的な駅前空間の創出を目指しており、土地の高度有効利用、歩道の改善、路上駐車対策などが課題であると認識している。

(主な答弁者：都市整備部長)

問 重大事態が起こらないよう、教育委員会と学校は共通認識を確立する必要がある。いじめ防止に向けた決意はどうか。

答 いじめは誰にでも起こるといふ共通認識に立ち、子ども

鈴木 絹男 議員

住みたい、住み続けたい、帰ってきたと思えるまちづくりを

―元気で活気のある持続可能な未来志向のまちづくりを進める―

問 市長 2 期目のマニフェストの進捗状況はどうか。

答 マニフェストを行程表にまとめたまちづくりプランについて全体の 7 割を超える取組みが既に完了しており、残りの取組みについても、方向性を決定して推進している。

問 市長 2 期目をどのように評価、総括しているのか。

答 安心・安全を重点施策に置き、ハザードマップの作成、青色パトロールによる夜間地域巡回、地域医療連携、刈谷城築城 480 年記念事業等を行った。これら事業で一定の成果を上げることができたのは、市民の皆様をはじめ、多くの皆様のご理解、ご協力の賜物であると感謝している。

星野 雅春 議員

アルコール依存症患者とその家族を社会で支援する取組みを

―保健所の助言、指導を受けて、関係部署と連携を図っていく―

問 アルコール依存症に対する見解と、相談機関は。

答 依存症は病気であるという認識を持ち、医療機関を早期に受診することが重要である。厚労省によると、大量飲酒者に脳萎縮が高い割合で見られることや認知症の危険性が高まることと示されている。

(主な答弁者：福祉健康部長)

問 今後のまちづくりについて、7 月の市長選挙も見据えて、どのように取り組むのか。

答 市民の皆様の負託を再びいただけるのであれば、ふるさと刈谷のために全力を傾注し、市民の皆様の元気と幸せ、安心安全を確保できるよう、元気で活気ある持続可能な未来志向のまちづくりを目指していきたい。

(主な答弁者：福祉健康部長)

問 アルコール健康障害対策基本法とはどのようなものか。

答 アルコール健康障害対策基本法とはどのようなものか。また、第 2 次健康日本 21 かりや計画における依存症の位置づけは。基本法は、大量飲酒や未成年・妊産婦の飲酒等の影響による心身の健康障害の発生、進行及び再発防止対策や生活支援実施の配慮を基本理念とするものである。また、計画では飲酒



郷土愛を育み未来へ夢を紡ぐ

からのサインを見逃さない体制が必要である。自主性、主体性の育成や自分が大切な存在だと感じられる学校づくりが重要であり、今後も子どもに寄り添った指導を心がけていく。

(主な答弁者：市長)

を生活習慣 6 つの分野のうち 1 つとして位置づけており、節度ある適度な飲酒についての啓発や、情報提供等を進めていく。

加藤 峯昭 議員

避難道路沿道の建築物にも地震対策の補助を

―補助制度の創設等を含め早期に実施していきたい―

問 地震対策として、今年度から新たに実施している補助制度はどのようなものか。

答 新たに 2 つの補助を実施している。一つ目は、建物が倒壊し、道路の通行ができなくなることを防止するため、緊急輸送道路等の沿道にある建築物に対して、地震対策の補助を行う「緊急輸送道路等沿道建築物の耐震診断費補助と耐震改修費補助」。二つ目は旧耐震基準の木造住宅を対象とした「耐震シェルター設置費用補助」で、耐震シェルターを住宅内に設置する

問 地域防災計画に載っている避難道路とは。

答 災害時に住民が避難する道路でおおむね 6 メートル以上の幅員を有し、交通量が少ない等の基準により住民が選定するものである。

◆審査の概要

政治倫理委員会では、成田正和議員の電磁的公正証書原本不実記録等被告事件にかける第一審判決が有罪となつたことに対する政治倫理委員会の審査結果について

◆協議結果

刈谷市議会議員政治倫理要綱第 2 条第 1 号に抵触すると認められるため、同要綱第 5 条第 1 項第 4 号の規定に基づき、次のとおり措置することに決定しました。

①措置内容

議員の職を辞することを勧告する。

②理由

電磁的公正証書原本不実記録・同供用の罪で罰金 30 万円の有罪判決を名古屋地方裁判所岡崎支部から言い渡され刑が確定したことは、市政に対する市民の厳粛な信託に応えるために、公正かつ清廉でなければならぬ市議会議員としてはあるまじき行為であり、刈谷市及び刈谷市議会の名誉を著しく傷つけた。さらに、新聞報道にあるように、裁判長が判決の中で「議員の肩書を利用して第三者に協力を要請するなど巧妙で反省の情も見られない」と述べており、市民からの刈谷市議会に対する信頼を失墜させた。よって、議員辞職を勧告することが妥当と判断した。